

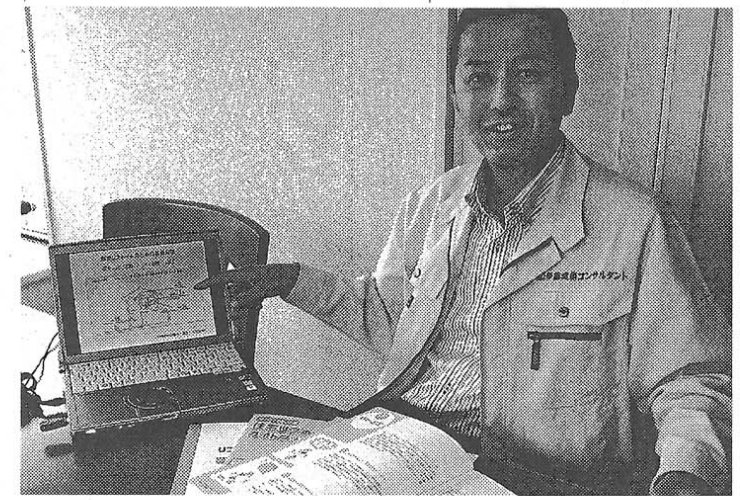
改築で涼しい我が家に

汗だくで帰宅すると、閉め切った家の中は熱気で蒸し風呂のよう。そんな夏の室内環境が、比較的簡単な工事で改善されるという。節電にも貢献できる「クールリフォーム」について、1級建築士で省エネ住宅に詳しい伊藤裕啓さん(46)に神戸市東灘区に聞いた。

夏、家の中が暑くなるのは、外気が室内に入り込んでくるため。熱が入ってくる経路の71%は「窓」。次いで多いのが外壁、屋根、換気扇。ガラス戸を閉め切っても、熱はアルミの窓枠の隙間や単板ガラスを通して室内に伝わる。

「熱せられた外気を遮断

「内窓だけでも十分な効果がある。様子を見ながら進めて」と話す伊藤裕啓建築士＝神戸市東灘区

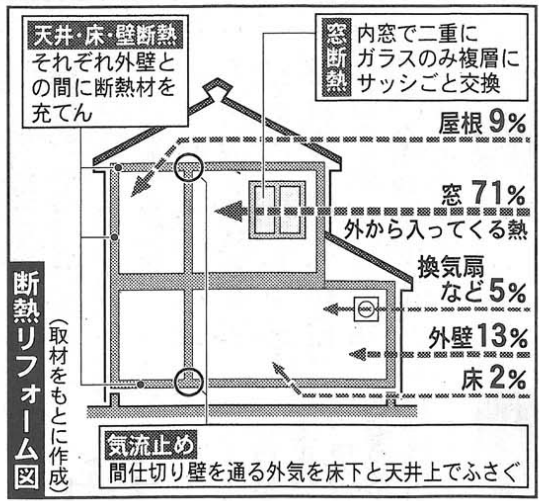


内窓設置し外気を遮断

天井、床、壁に断熱材を

する策としては、『内窓』が一般的です。今ある窓の内側にもうひとつ設置し、二重窓にするのが内窓。単板ガラス入りの内窓なら、1日程度の工事で熱の遮断率はおおよそ半分になる。また、ガラスだけ複層ガラスに取り換えるのと、ガラス間の数ミの隙間が熱伝導を遮ってくれる。アルミに比べ、断熱効果の高い樹脂タイプのサッシもあり、ガラスとセットで取り換えることさらに効果的だが、外壁や窓周辺に補修工事が必要になる場合もあり、コスト高は避けられない。

と、ガラス間の数ミの隙間が熱伝導を遮ってくれる。アルミに比べ、断熱効果の高い樹脂タイプのサッシもあり、ガラスとセットで取り換えることさらに効果的だが、外壁や窓周辺に補修工事が必要になる場合もあり、コスト高は避けられない。



断熱リフォーム (取材をもとに作成)

熱い外気には、「遮熱」と「断熱」の二段構えで対応しよう。まず直射日光を屋外で遮ること。「ベランダにすだれや、緑のカーテン、遮光効果のあるネットなどでひと工夫すれば体感温度はかなり変わります」と伊藤さん。

さらに効果を高めるなら床や壁などに断熱材を充てんする方法も。ただし、ビ

簡単工事で節電にも貢献

省エネリフォームは、窓部分の工事と床・壁・天井に断熱材を入れる工事に大別される。費用は滞在時間の多い「リビング」と「寝室」だけの窓工事なら平均25万〜60万円だ(2008年、エコリフォームコンソーシアム調べ)。

リフォームをめぐるのはトラブルも絶えない。そのためには、第三者の立場を保てる建築の専門家のサポートも欠かせない。工事前

もりと工事内容の確認▽終了後に手抜きがないかチェックーなど節目節目で確認してもらえば安心だ。調査費用は1回につき3万〜5万円かかる。

年間60軒あまりを調査に行っている経験から「既存住宅は壁をめぐって初めて正確な状態が分かり、新たに費用が上積みになるケースも多い。予算いっぱいで見積もると後で困る。専門知識を持つ者と交渉するのが得策」と伊藤さんは話す。

神戸市の外郭団体「神戸市すまいの安心支援センター」(078・2222・0005)は、建築士らが常駐しており、住宅関連の相談に広く応じている。自宅を調査してくれる建築の専門家も紹介している。

(鈴木久仁子)

ふれあい

毎年、宮崎県... ている。今年は晴が影響しないから毎年注文しているから新茶の案内が案内文には、どの被害はなかった。それを読注文させていたただ届いた新茶とをかみさん直筆の手めても美しい高士した写真。加えて

